

知っていたようで知らなかった!?

御前埼灯台の魅力



言わずと知れた市のシンボル、御前埼灯台。休日は観光客でにぎわいを見せられています。

平成28年度に実施された「御前崎市シティブロモーション戦略策定のための市民意識調査」（市民約1300人、県内在住者200人から回収）では、市民はほぼ100%、県内在住者でも7割以上の人が市の地域資源として認知しています。一方で、長年、近所で土産物屋を営む人は「市内の人はあまり来ることはないし、灯台にも登らないね」と話します。私たちは、灯台のことをどれぐらい知っているのでしょうか。

今回は、市自慢の観光資源である、御前埼灯台の魅力に迫ります。

日本の灯台

沿岸灯台、防波堤灯台を合わせ、日本には3000基を超える灯台があります。海に囲まれた日本にとって、灯台は航海安全のために必要不可欠な存在です。近年では、美観や歴史など文化的な視点でも評価されています。

西洋式の灯台建築を計画するようになったのは幕末から。1866年に「改税約書」をイギリス、フランスなどと結んだ中で、暗く危険な日本の海に灯台の設置を要求されたことがきっかけでした。